

資料から見る

恩納村の沖縄戦(一)

村誌編さん室では、恩納村民の体験を中心に、村外からの疎開、避難、恩納村における第四遊撃隊(第二護郷隊)の体験など、恩納村に関わる体験の聞き取りをすすめています。またこれと同時に並行で、沖縄戦に到る準備段階の恩納村の状況を知るため、貴重な陣中日誌、命令文書など、日本軍資料からも調査をすすめています。今回はいくつかの資料から見えてくる沖縄戦前後の恩納村の状況について紹介します。

沖繩が決戦場になることを予想し、来るべき沖縄戦へむけての準備、心構えが、第三十二軍牛島満司令官の訓示(一九四四年八月三十一日)に七点の「本職統率の大綱」として示されています。

- 第一 「森厳なる軍紀の下鉄石の団結を固成すべし」(略)(戦闘が激しくなっても強い団結でたちむかうこと)
- 第二 「敢闘精神を発揚すべし」(略)(最後の一兵まで敵に立ち向かうこと)
- 第三 「速かに戦備を整へ且訓練に徹底し断じて不覚を取るべからず」(略)(守りに重点をおき訓練を徹底し防備を強化すること)
- 第四 「海軍、航空及船舶と緊密なる共同連携を保

持すべし」(略)(陸軍、海軍、航空、船舶の強い連携をはかること)

第五 「現地自活に徹すべし 極力資材の節用増産、貯蔵等に勉むると共に創意工夫を加へて

現地物資を活用し一木一草と雖も之を戦力化するべし」(略)(資材の節約、増産、貯蓄に極力に努め、一木一草といえども戦力に使うこと)

第六 「地方官民として喜んで軍の作戦に寄与し進んで郷土を防衛する如く指導すべし 之が為懇に地方官民を指導し喜んで軍の作戦準備に協力せしむると共に敵の来攻に方りては軍の作戦を阻碍せざるのみならず進んで戦力増強に寄与して郷土防衛せしむる如く指導すべし」(略)(官民が一体となつて軍に協力し、敵の攻撃があったときには軍の作戦の邪魔にならないだけでなく、戦力増強に協力させること)

第七 「防諜に厳に注意すべし」(略)(スパイには極力注意すべきである)

この大綱のもと、沖縄全域で戦争準備がすすめていけます。部隊の陣中日誌にも各部隊の兵士に対する訓示という形で類似の表現が登場してきます。恩納村においては第二十四師団歩兵第三十二連隊が配備、山田国民学校に連隊本部がおかれ、村内での陣地構築が各地ですすすめられます。第三十二連

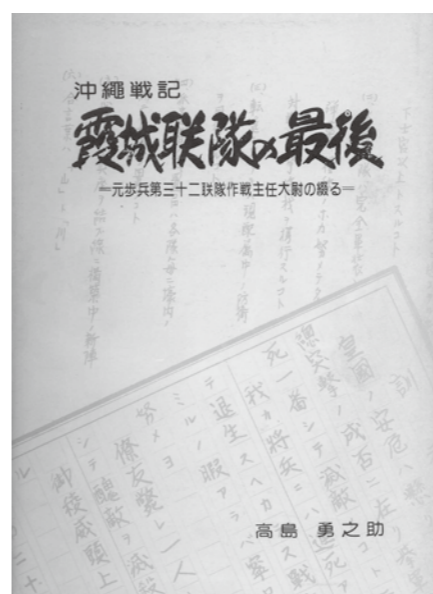
隊についての記録は少ないですが、史実資料という形で恩納村での行動記録が残されています。

第三十二連隊作戦主任大尉であった高島勇之助氏の書いた「霞城(かじょう)連隊の最後」という著書に、第三十二連隊「戦闘指導要領」が載っているのその一部を紹介いたします。この中に恩納村での戦闘について想定した内容が示されています。

(※)掲載されている資料について、原典を村誌編さん室で調査中ですが、まだ所在不明です。

「戦闘指導要領」

前進部隊(在恩納、金武部隊)  
一、該地附近に敵上陸の際は極力これを妨害する  
二、北方地区より南下する敵に対しては極力出血を



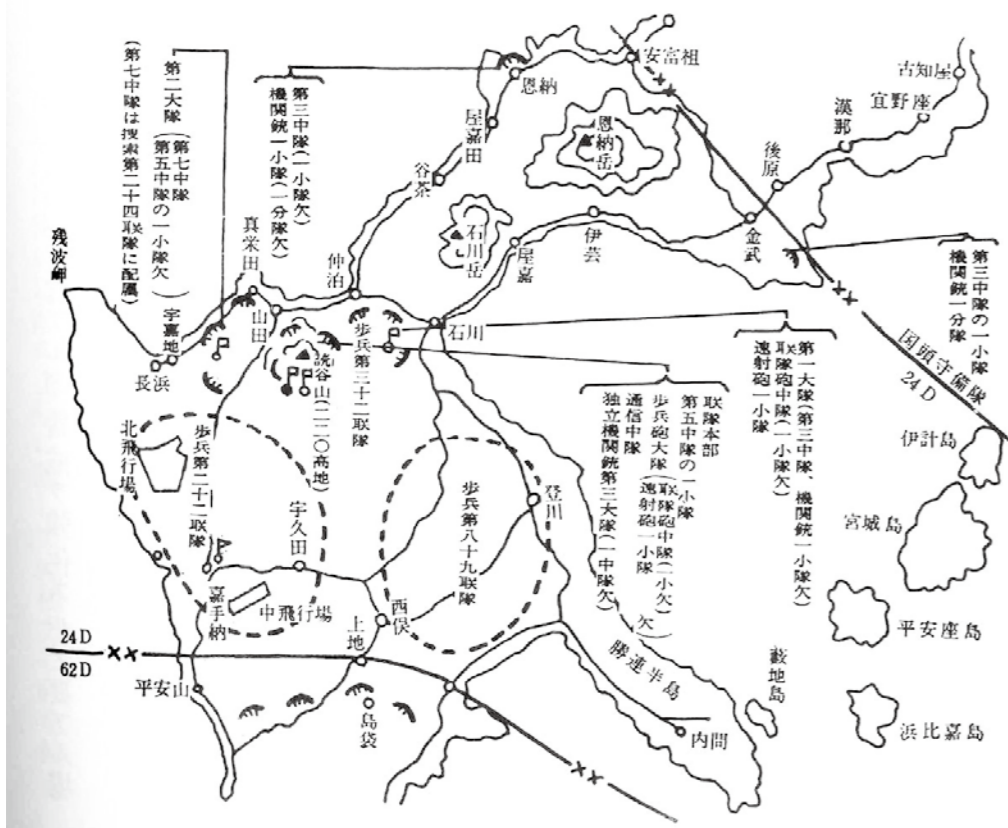
「霞城連隊の最後」 高島勇之助 著

戦える陣地構築を指示していました。次回、別資料から戦争準備の状況を見ていきたいと思えます。(次回へ続く)

(瀬戸)

(参考文献)

- 「沖縄戦と民衆」林博史 (二〇〇一年)
- 六十二師団工兵隊陣中日誌 (一九四四年八月一日〜三十一日)
- 二十四師団第三十二連隊史実資料 (一九四七年三月二十五日)
- 「霞城連隊の最後」高島勇之助 (一九七四年)



読谷村附近における歩兵第三十二連隊配置要図(一九四四年八月五日〜十二月六日) (「霞城連隊の最後」所収)

強要しその前進を遅滞せしめ、機を見て恩納岳附近に兵力を集結して敵と接触を保持しながら大隊主陣地に後退 (以下後略)

争の戦線で取られていた戦法と同じく、水際で撃退する方針を採り、万が一上陸された場合には迎え撃ち、恩納岳での戦闘を展開することが考えられていました。

またその要領の中に「陣地構築上の留意事項」という形で十五項目にわたり細かく指示がまとめられています。

「敵上陸を十二月と予定し昼夜兼行交代制により作業の推進を図ること」(十四項目)、「将兵は日夜寝食を忘れ陣地構築に余念なく完成に急なり」(第二十四師団歩兵第三十二連隊史実資料)との表現から、突貫作業で行われていたことがわかります。また「炊事その他雑用には住民を使用」とあるように、作業をすすめる上で住民の動員は欠かせないとしています。六項目には「各陣地は最後迄孤立して戦闘し得る如く選定する」とし、最後の一兵になるまで

お知らせ

『海外調査報告書(ブラジル・ポリビア)』発刊♪



2013年にブラジル・ポリビアで行った調査の報告書が発刊されました。多くの恩納村出身の方々から、経験や思いを聞かせていただきました。報告書は村文化情報センターをはじめ、村内の各小中学校や公民館などに配布いたしました。今年はおウチナンチュ大会も開催されます。是非ご覧ください。